2019.07.27.
T.Kobayashi

蘇我の街角から歴史を紐解いてみたら

梅雨の中休みのような空模様の蒸し暑い日、新検見川駅から電車に乗って千葉へ。そして外房線に乗換えて二駅、蘇我まで。普段は用事がある時には車を使うことが多い場所だが、何となく電車に乗って出かけてみたくなった。駅から目的地まで行く間に神社とお寺がある。何かがありそうな気がしていたが、まだ足を踏み入れたことがない。「ならば、そこへ」ということになった次第。

＜１＞ 蘇我という地名の由来

「蘇我」という地名の由来をたどると・・・

1500 年前に創建されたという蘇我比咩（そがひめ）神社によれば、日本武尊が東征の折、船で千葉沖に差し掛かった際、暴風雨に襲われて身に危険が迫った。この時に同船していた弟橘姫が、竜神の怒りを静めるべく同道の 5 人の姫達と共に海に身を投じて、この難を救った。身を投じた 5 人の内の一人である蘇我の大臣の娘（比咩）が近くの浜辺に打上げられ、村人に介抱されて無事都に帰ることが出来た。村人達は、帰途で命を落とした日本武尊の霊を慰めるべく社を建てて神として祀った。

これを知った応神天皇は村人達の心に報いるため、蘇我一族を国造として派遣してこの地を治めさせ、守護神として蘇我比咩神社を建立した。神社は、現在の蘇我 2 丁目ある。　https://yahoo.jp/pLKGzZ

ところが地名の由来にはもう一説あった。浜辺に打上げられたのは弟橘姫で、村人の介抱で蘇生した時に「我蘇り」と言ったことから「蘇我」の地名が誕生したという。地名の由来は、どこの土地の場合も同じように、諸説あり真説がどれかは不明とするものが多い。

明治時代には蘇我野村と言い、近隣の村と合体した後に蘇我町となったようだ。現在の蘇我 2 丁目の集合住宅の名前や郵便局の名前に「蘇我野」が使われているのは、その名残に違いない。

＜2＞今井神社から蘇我の歴史を遡る

蘇我駅を西口（海側）に下りて裏通りに入ると今井神社という小さな神社がある。寄進者の名前が刻まれた沢山の石が積み上げられて境内を取り囲んでいる。数段の石段を上がって中に入ってくと、人の気配はしないものの、人の手できれいに掃き清められた境内は静まり返っていた。何枚か写真を撮って、帰宅後に整理しながら、今井神社の歴史を遡ってみた。

昔は、このあたりは千葉郡今井村と言った。1889 年（明治 22 年）に近隣の蘇我野村・宮崎村・大森村・赤井村・小花輪村・生実郷が合併して蘇我野村となった。この時に八幡社と天神社も合祀・統合して今井神社となった。おそらく、合併によって小さな村に村社が二つになってしまったので統合しようということになったのだろうと思う。

ここまではわかったが、これより昔のこと（創建時期など）については明らかではないらしい。

今井神社はこちら　https://yahoo.jp/9s3iz7

＜３＞ 福正寺から見た　蘇我の歴史と今

今井神社の北西、コミュニティセンターの隣に福正寺というお寺が海に向かって建っている。コミュニティセンターの階上から見ると海のように広がる墓地が景色としては印象的だ。しかし、「夜になると何となく怖い」と言う人もいるが、どこのお寺にもある「怖さ」と同じかもしれない。

立派な山門に導かれて入っていくと、正面に本堂、右側には鐘楼もある重厚な佇まいに圧倒される。

万治元年に創建された浄土宗の寺で、正式名称は「薬師山高巌院福秀寺」と言った。元禄 13 年に日意上人が宗旨を改めて「日蓮宗富士山福正寺」として再開山したという変わり種。

広い墓地に、何かを見つけられそうな興味深さを感じて足を踏み入れてみた。「平和の礎」と書かれた大きな石碑が建っているので、近づいて文字を読み取ってみたら「千葉県遺族会」と彫ってあった。

そしてその先へ歩を進めていくと、古そうな墓石の間にひときわ大きな墓石が見つかった。

「蘇我町戦災死者の墓」と刻まれた文字に引きつけられて、脇に立つ墓碑の文字を読んでみた。

1945 年 6 月 10 日、早朝この地にあった日立航空機千葉工場を狙った B29 の爆撃により、蘇我 1 丁目

住民 129 名を含む 152 名の被害者が出た。その霊を慰めるべくここに墓石を建てた旨の記述があった。色々気になることがあったので、帰宅後に調べてみた結果を時系列で並べてみると・・・。
1942 年に蘇我・今井地区の海を埋め立てて、そこに日立航空機千葉工場を創設し、1944 年には軍用機の製造を開始。この会社は、海軍航空本部長山本五十六中将が財閥や大手企業に対して「航空機製造」の要求を出したことがきっかけで実現した。東京瓦斯電気工業（神風を開発した会社）が日立製作所に経営権を譲渡し、航空機部門を分離独立してできた会社。最盛期にはこの工場の労働者数は 12,000 人ほど。この工場の他に、千葉高等女学校・千葉師範女子部などにも分散工場が設置され、大網には多数のトンネルや地下工場も作りはじめたのだが・・・・。
1945 年 6 月の千葉空襲では軍需工場が対象となり、千葉工場・分散工場なども B29 による爆撃を受けた。さらに不幸なことに爆撃の標的を誤ったことにより、蘇我地区の住宅地まで爆撃を受ける結果となり、総計 152 名の戦死者が出た。この中には前述の女学校・師範学校の生徒・講師・雇員も含まれる悲惨な結末となった。千葉市では、5 月・6 月・7 月の計三回空襲を受け、戦災死者は 1000 人を越えた。
「蘇我町戦災死者の墓」設置の経緯は、こんな流れだということがわかった。
さて、この日立航空機千葉工場はどこにあったのか、という次の疑問について調べてみたら・・・。
1950 年、日立航空機千葉工場跡地に川崎製鉄千葉製鉄所を建設することが決定し、翌年（1951 年）に着工した。1952 年、千葉市が埋め立て地を川崎製鉄に譲渡、そして 1953 年一号高炉の火入れが行われて、「鉄の町千葉」がスタートした。
その後、1956 年には東京電力千葉火力発電所も運転開始して、蘇我は名実共に京葉工業地帯の一翼を担う町になった。全国各地にも例を見るように、新生工業地帯は「公害」の問題も数多く生み出した。
川崎製鉄は、2000 年に国内 2 位の日本鋼管(NKK)との経営統合を決め、事業を再編。
蘇我の町のシンボルとだった「川崎製鉄千葉製鉄所」は、2003 年には「JFE スチール東日本製鉄所」と名を変えて今日に至っている。埋め立て地に付けられた「中央区川崎町」という町の名前だけが、歴史の生き証人として残っているのも面白い。　　福正寺はこちら　https://yahoo.jp/x01i9M

以上